



《考える人》

静岡県立美術館

Shizuoka Prefectural Museum of Art



静岡県立美術館とロダン

1986年、県立美術館は、17世紀以降の東西の風景画を収集のテーマとして出発しました。その後、彫刻による人体表現にも目を向け、ロダンの代表作「カレーの市民」をエントランスホールに設置。これを契機にフランス国立ロダン美術館と静岡県との間に友好関係が成立し、ロダン作品の収集・展示が開始されました。

ロダン館の開館は、1994年3月。ガラス屋根から自然光が降り注ぐユニークなラグビーボール状の建築には、常時32体のロダン作品を展示し、世界でも屈指のロダンコレクションを堪能できます。



オーギュスト・ロダン

1840年、フランス・パリに生まれる。彫刻家を志し、エコール・デ・ボザール（フランス国立美術学校）を受験するが、何度も失敗。彫刻家カリエ＝バルーズとともにベルギー・ブリュッセルで公共彫刻を制作する。1880年、フランス政府から装飾美術館の門扉の制作を依頼され、ダンテの『神曲』を主題として《地獄の門》を制作する。ロダンが発表する作品は、その斬新さから常に世間にスキャンダルを巻き起こした。1917年、なくなる10ヶ月程前に、内縁の妻ローズ・ブーレと結婚。現在、ロダンの墓には、《考える人》が置かれている。



ロダン館 フロアガイド

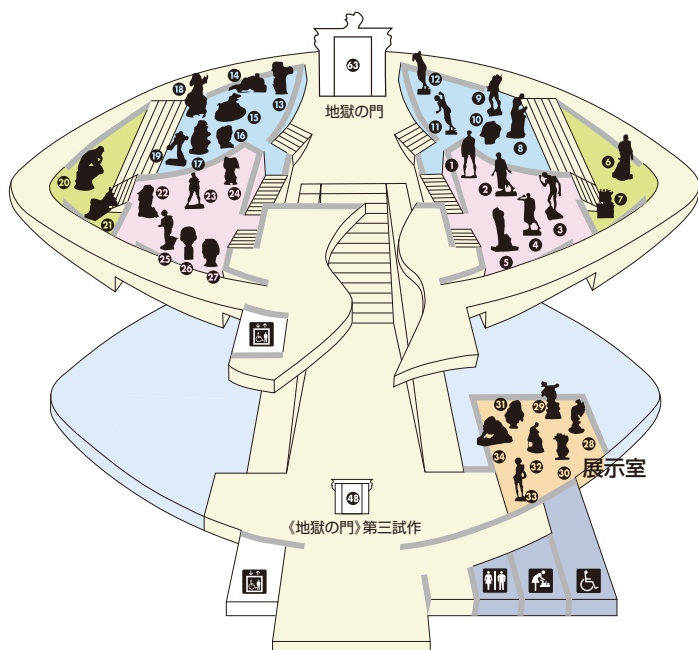
A.ロダン

1. 《カレーの市民》ジャン・デール
2. 《カレーの市民》ジャン・ド・フィエンヌ
3. 《カレーの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
4. 《カレーの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
5. 《カレーの市民》アンドリュウ・ダンドル
6. 《カレーの市民》ユスターシュ・ド・サン＝ピエール
7. 《カレーの市民》第一試作
8. ホイッスラーのためのミューズ
9. 裸のバルザック
10. バルザックの巨大な頭部
11. 永遠の休息の精
12. 《永遠の休息の精》のトルソ
13. 《影》のトルソ
14. パオロとフランチェスカ
15. フギット・アモール
16. 《影》の頭部
17. 壺をもつカリアティード
18. シペール

19. 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスのトルソと女のトルソ
女のケンタウロスのトルソとイリスのためのトルソ
20. 考える人
21. バッカス祭
22. 《ラ・フランス》習作
23. パスティアン＝ルバージュ
24. ヴィクトリア・アンド・アルバートと呼ばれる女のトルソ
25. クロード・ロラン
26. ボードレールの頭部
27. 花子のマスク

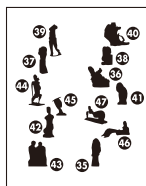
展示室

28. J.-B. カルポー/ナポリの漁師の少年
29. A.-E. カリエ＝ペルーズ/ニンフを連れ去るサテュロス
30. A. ロダン/バラの髪飾りの少女
31. J.-B. カルポー/悲しみの聖母
32. A.-J. ダルレー/乳を与えるパリの女
33. E. フレミエ/蛇使い
34. A.-L. バリー/ライオンと蛇



ブリッジ・ギャラリー

35. P. ゴーガン/オヴィリ
36. M. ロッソ/病める男
37. E.-A. ブールデル/アポロンの首
38. E.-A. ブールデル/ロダンの肖像
39. A. マイヨール/
《イルド・フランス》のトルソ
40. C. クローデル/波
41. C. ブランクーシ/ボガニー嬢II



42. W. レームブルック/女のトルソ
43. E. バルラッパ/読書する僧たちIII
44. J. リブシッツ/母と子
45. A. アーキベンコ/《化粧する女》習作
46. H. ムーア/横たわる人体
47. A. ジャコメッティ/横たわる女

地獄の門

史上六番目に鑄造されたロダンの代表作。

1880年、フランス政府が新美術館の門扉として
ロダンに制作を依頼した《地獄の門》は、
ダンテの『神曲』をテーマにした
200体以上の人物像からなるロダンの代表作です。



考える人

この作品の前で人は、しばし立ち尽くす。

もともと《地獄の門》のなかにあった《考える人》は、当初《詩人》というタイトルで発表されました。

人気を博した《考える人》は、門から独立した後、門のなかのものと同じサイズ(中)、そして大・小の像が作られました。



フギット・アモール

大理石作品でロダンは何を表現したか。

「フギット・アモール」とは、
ラテン語で「^{のが}逃れざる愛」という意味で、
男女の恋愛関係を赤裸々に表しています。



カレーの市民

市民たちの悲嘆が聴こえてくるようだ。

イギリスとフランスの百年戦争の英雄である

6人の市民像の制作をカレー市はロダンに依頼しました。

ところが、ロダンが試作したものは、

それと正反対の嘆き、苦しむ姿の人間像だったのです。

この《カレーの市民》が世に認められたのは、ロダンの死後のことでした。



バラの髪飾りの少女

テラコッタ(素焼きした粘土)の作品

青年ロダンは、ベルギーで修行しましたが、

この作品は、その頃に制作されたものの一つです。

頭髮にあしらった花飾りや

心もち開いた唇が

優美で官能的です。



ロダン本人が制作した石膏またはテラコッタの原型から^{ちゅうぞう}鋳造されていること、そして各作品の鋳造を12体までに限定するという二つの条件のもとに鋳造されたロダンのブロンズ作品は、ロダン美術館の厳正な管理によってすべてオリジナルと認められることが、フランスの法律で定められています。



© By MUSEE Rodin 1983



E. GODARD Fondu

《地獄の門》の登場人物で、悲恋のテーマで多くの芸術家を惹きつけた《パオロとフランチェスカ》。パオロの爪先下の台座を見ると、ロダン美術館による1983年の鋳造であることが、その著作権者銘とともに刻まれています。

また、美しい曲線を描くフランチェスカの^{でんぶ}臀部下の台座には、鋳造を行なったエミール・ゴダールの銘があります。

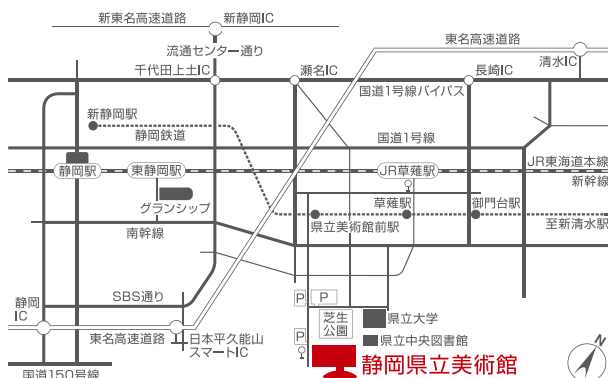


A. Rodin N° 8/8

台座には、ロダンのサインと鋳造番号。これまでに鋳造された8体のブロンズのうち、本作が8番目にあたることが刻まれています。

ご利用案内

- 開館時間** ● 10:00～17:30(入室は17:00まで)
- 休館日** ● 毎週月曜日(祝日、または振替休日にあたる場合は開館し、翌日休館)。年末年始。その他展示替え等のため休館する場合があります。
- 観覧料** ● ロダン館・収蔵品展
- | 区分 | 個人 | 団体 |
|-------------|------|------|
| 一般 | 300円 | 200円 |
| 大学生以下・70歳以上 | 無料 | |
- 企画展の観覧料は、展覧会ごとに異なります。(中学生以下は無料です。)
- 観覧料の割引** ● 身体障害者手帳、療養手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は、企画展、収蔵品展ともに無料です。
- バリアフリー情報** ● 貸出車椅子をご用意しています。インフォメーションでおたずねください。身体障害者用駐車場・トイレ・エレベーターがあります。身体障害者専用駐車場(P5)から入口までスロープがあります。目の不自由な方のために、彫刻作品を触って鑑賞する「タッチ・ツアー」があります。予約制ですので、お電話でお申し込みください。
- アクセス** ●
- JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分(料金100円)
 - JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分、又は北口から静鉄バスで約30分
 - JR「東静岡駅」南口からタクシーで約15分、又は静鉄バスで約20分
 - 静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分、又は静鉄バスで約3分
 - 東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約25分、日本平く能山スマートICから車で約15分、新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分
- バスは『プロムナード』『県立美術館』の順に停車します。
『プロムナード』バス停でおりて、彫刻プロムナードをご散策ください。
- 駐車場** ● 彫刻プロムナードの周辺に大型バスを含めて約400台を収容できる駐車場があります。



静岡県立美術館

Shizuoka Prefectural Museum of Art